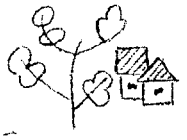
と人が殺せるんだつてね」とこれは小学三年の弟の方がある時真顔で云うので驚かされた。これはラジオからの知識らしいが、落ちついて考えるとこの子の場合それを実行する気づかいは先ず絶対にない。

何か新しいことをしてみようという意欲ある子供には育たないで過つているくらいだから。しかしとにかくと子供にそんな知恵を与えた罪はゆるせないと思う。そつとそれと投い方次第で、そし遊びながらそんなまねをしている友達を見るとか、あやまつて他人がそのような状態になつた時に、死ぬかと知れないと気づいて止めることかてこれは、マスコミと育用であつたと云う結論になる。まねのできる手口を教えるのは危険だが、知らないでいることと危険である場合があろう。

要は知識以前のしつけの問題に帰するので、わが子だけ特別に扱つて見せないさせないの学業偏重、意識過剰の教育ママさんこそ危険な存在というべきである。

（浅　海）

お別れにあたつて



吉田　栄夫

私は今夏、お茶の水女子大学から広島大学へ転任することになりました。都立大学から参つたのは、昭和三ク年の八月ですので、2年半ほどの間お茶の水に御世話になつたことになります。いろいろな事情があつて、お茶の水の方の御都合が必ずしも良いわけではないのにも拘らず、勝手を言わせて頂いた次第ですが在任期間があまりに短かくて、大変申訳けないと思つています。つまり、ようやく今迄の不慣れを克服して、これからやつと多少の教師らしい事ができそうになり、何とか少しは御役に立てそうになつて来たところで移つてしまうことになります。申訳けなさのほか、惜別の思いを大いに感じております。

都立大学にいた頃、実習などで多少は学生諸君の学業の手伝いをすることもありましたが、何といつても大学の教師として教壇に立つたのは、お茶の水が初めてでしたので、この2年半の日々、多くの忘れ難い強い印象を受けましたし、それらはまた今後の私の歩む道の上に大きな影響を与えるものと思われます。

暑い日ざしの中で、テクテクと登つた浅間、石尊山の頂きの昼食や、鬼首の自衛隊トラック便乗など、巡検の憶い出は殊の外鮮明です。また、居眠りをしたり、時に私語を交したりしながらも、慣れない、あまり面白くない講

義に耳を傾けてくれた学生諸君には、感謝とし、済まなくと思っています。さらに寮務委員をやらされ、その上学生委員を兼ねさせられてしまった時はよくぶつぶつ言ったものですが、寮の委員や、自治委員の諸嬢と、種々の問題について語り合っているうちに、教室では知り得ない学生生活の一端を覗うことができました。私とかなり頑固なところがあって、なかなか学生の委員諸子の云うことに同調できないことがよくありましたが、それでも、いろんなことを知るにつれて、自然と肩を入れるようになり、私としては或る程度一生懸命やったと思っています。渡辺先生はじめ諸先生方、助手の方々にも折に触れていろいろ御話を伺い、得る所極めて大でした。

私個人の生活についても、この2年半は、母の死、家族の長い病気、結婚さらには短期間ではありましたが外国行まで挟まって、人生の一つの大きな変動期だったようです。以上のようなさまざまな事が混じ合って、お茶の水大学での日々を考えてみるとき、深い感慨を覚えます。このような貴重な場と、そこでの御鞭撻を与えて下さったことに対しまして、地理教室の諸先生は勿論のこと他の教室の先生方や学生諸君に、誌上を御借りして、厚く御礼を申上げさせて頂きたいと思います。

御別れに際しまして、一つ学生の方々に、注文を出しておきたいと思います。この前、或る方に一寸気になることを言われましたが、それに関連しての事です。それは、お茶大の卒業生は、どうも職場の他の人達と、時には同窓生であっても、融け合わないようだし、また無理な背延びをしているようだということです。勿論、物事を進めるのに何でも妥協してしまうことはありませんが、しかし、若しこのことが本当ならば、大変不幸なことではなかろうかと思います。どうしてこのようなことが起るのでしょうか。

私は教師としての経験も浅く、また他の大学のことはよく知りませんので、お茶大生を他と充分比較することはできません。しかし、一般にお茶代生が優れた素質を持っていることは、私の僅かな経験からも、人の話によっても、また卒業生の活躍を見ても明らかだと思います。この素質を生かすことのできる環境―大学生活―を与えられているお茶大生諸子は、まことに恵まれていると言うべきでしょう。

学部の学生にとって、大学は学問だけを学ぶところではないし、しかも、学問が中心となるところだということは、どなたも御存知で、今さら言うまでもない事ですが、それでも、私の学生時代を振返ってみても、これを本当に生かすことはなかなか難しいもののようです。恐らく、自分は恵まれているのだという充分な自覚が、大学における生活を充実させ、ひいては、新た

掲げた批評を改めさせることにとなるのではないでしようか。

背延びは、知識と経験の浅さを無理にカバーしようとすることから起ります。物事を知れば知るほどその深さ博さに気付き、謙虚となり、心を閉ざすことは少くなりましよう。そうなれば、背延びせずとも済むようになり、着実な進歩が約束されるでしよう。

交友関係の形成とまた大学の重要な機能の一つです。勿論、私は学生諸君の交友の実態をよく知つているわけではありません。しかし、時に見聞するところでは、上級生と下級生との間の交流は、私達の学生時代に比べると、やや不充分の様に感じられてますし、また自分が専門に学んでいることについての話し合い—例えば自分のフィールドのこと、勉強の仕方など—と教室以外の場でどの程度行われているのか存じませんが、不活潑のように見受けられます。こうした交流が、直接問題解決のためにみのり多いとは言えませんが、かゝることを通じて人の話をよく聞き、自分と異つた年令の、また異つた環境に育つた他人と良い意味で協調して行ける下地が作られるのではないでしようか。私が学生時代、ある左翼の友人が、自分と意見を異にするクラスの学生のことを私に話し、アイツは馬鹿だと片付けた時、私はいわゆる左翼学生に対して強い不信の念を覚えました。どうかこんな事のないように-----博い心で深い叡智を磨かれる事を祈ります。

ごたごた思いつくままに誌面を汚しました。これから文教育学部にと大学院ができ、地理教室と発展することでしよう。皆様の御健勝と御奮斗を期待しております。御西下の折には広島大学に御立寄下さい。歓迎します。

フィールド

岡崎　セツ子

真青な空。一面のみどり。たたきつけるような八月の陽光(ひかり)。一見、平坦にみえる台地。数回目にひきあげられたボーラーの先端は、別世界の冷たさを運んでくる。麦わら帽子の日陰だけがそれを迎える。———

電車の音も遠くなつた。荒地に建てられる工場の建築の音だけが、いやによくとおる。草の生い茂つた野良には人影など見当らない。たまに通る人を、こちらが迎え、見送る。

ここは自分の所有地ではない。その点お互い様だ。ハンマーを振りあげているから------といつても-------別に——土地会社？役場？—関係ない——。